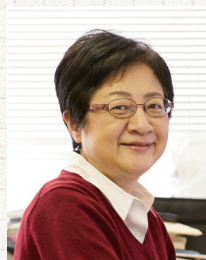


近隣住民ネットワークの 国際比較研究



社会学部
現代社会学科
大内 田鶴子 教授

今日の国際情勢は、貧富の格差の拡大、大規模な移民の流れ、情報拡散の速さなど激動の時代に突入しています。そうした中で、世界各地の地域社会では新しい環境に対処しつつ、地域課題に取り組み、住民の参画や民主主義の在り方を模索しています。コミュニティの研究は、これまで国内問題として取上げ研究されてきましたが、本研究ではこうした国際情勢を鑑みて、諸外国の地域社会レベルでの取り組み、コミュニティ政策に関する情報収集と分析を行うことにしました。

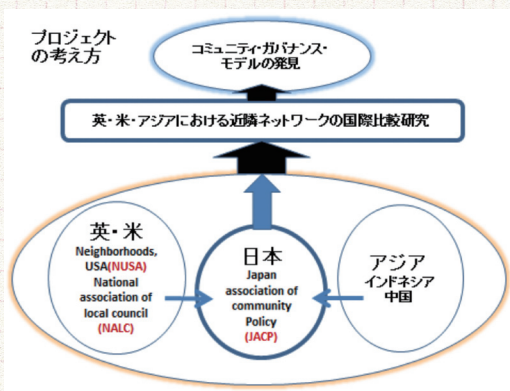
グローバル化した現代社会においては、民俗・宗教・階層などがますます多様化し対立する価値観の中で、現実には利己的でバラバラな個人の考えを一つの方向、同じコミュニティの政治に纏め上げていかなければなりません。災害や緊急時の対応も、もはやトップダウンを待っている間に合わないほど都市が巨大化し、逆に世界は小さくなり、

現場単位ですばやく行動する必要に迫られています。このような社会と技術の変化に対応した、新しい柔軟な行政制度、参加制度、共同行動の在り方が求められ、世界の各地で地域コミュニティの実践が生まれています。世界の各地で、地域社会と市民に関する新たな理論枠組が必要となっています。

町内会・自治会・消防団・子供会は年配の方々にはごく当たり前の大切な地域社会の仕組みです。ところが現代においては、これらの伝統的な地域組織の意味・役割を多くの人が理解することなく、これらを知らない若者も増えていきます。本研究では、自治会などの地域組織の重要性を、国際比較研究を通じて多くの方々にも再認識していただくことを目指した研究です。また、高齢化、人材不足、資金不足など、閉塞状況をいかに打ち破っていくか、組織運営についても海外から吸収できるものは吸収しようとする研究です。

(平成28年度科学研究費補助金 基盤研究(B)に採択)

主な研究メンバーは、大内田鶴子(江戸川大学教授)を研究代表者とし、鯉坂学(同志社大学教授)、玉野和志(首都大学東京教授)、廣田有里(江戸川大学准教授)、林香織(江戸川大学准教授)がそれぞれ研究分担者として参加します。研究協力者として、細淵倫子(首都大学東京博士課程)、ギギ・ファビオ(UK, University of London, Lecturer)、ジム・ディアス(USA, Community Organizer)らが加わります。



科学研究費補助金(学術研究助成基金助成金)が交付された研究を紹介します。